

## キ ー ワ ー ド

会長 藤本 竜伸

時代が要請するのでしょうか。教育改革が加速化して、教育に関する多くのキーワードが目まぐるしく飛び交っています。その中で、私が特に注目しているキーワードが、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」と「高大接続改革」です。

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」というのは、初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育の全体の抜本的充実を図るものです。具体的には、小学校中学年で週1～2コマの活動型授業を実施し、学級担任を中心にコミュニケーション能力の素地を養うことを目指します。小学校高学年においては、学級担任に加えて専科教員を積極的に活用し、教科型授業を週3コマ程度行います。中学校では、授業を英語で行うことを基本としています。

確かに、グローバル化に対応するためには、このような改革が必要なのかもしれません。が、小学校への英語専科教員の配置を考えれば、英語教員が不足することが心配されます。

そういえば、本県でも「英語力日本一」を掲げて英語教育に力を注いでおります。そして、そのような取組の中、平成28年度には、本郡市を会場に「外国語・外国語活動」の秋田県研究大会が開催されることとなっており、会員の皆さんの研究実践が期待されているところです。

また、宣伝になりますが、大曲小学校が、「拠点校・協力校英語授業改善プログラム」の指定校として、今年度11月に自主公開することとしており、研究の成果を多くの皆様にお見せしたいと計画を進めております。

もう一つのキーワード「高大接続改革」は、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を通じて、「知識・技能」のみならず、「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」や主体性をもって多様な人々と協働する態度などの真の学力の育成・評価に取り組むものです。これには、大学入試制度改革も含まれており、現在の小・中学生の大学入試時に関係します。ですから、小・中学校においては、「思考力・判断力・表現力」の育成のための授業改善が一層求められます。また、進学塾等の指導の在り方も一変するかもしれません。教育改革は、多くを巻き込みながら進むことになるのです。

難しい話になってしまいました。。。。。

この時期、登校した小学生は、「ねえ、見てみて。アサガオが咲いたよ。」「ミニトマトが赤くなったよ。」「〇〇君のキュウリがカラスに食べられてかわいそう。」というように声をかけてきます。どの顔も目を輝かせ、生き生きとしています。私の毎朝の楽しみです。

不易と流行ということがよくいわれますが、いつの時代にあっても、この子達の笑顔こそ私たちの求めるものなのだと、胸に刻む毎日です。